

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 24日は、低気圧が北日本付近をゆっくり進み、前線が本州南岸付近を東進する。
- 25日は、低気圧が日本の東を進み、高気圧が沿海州付近へ移動して西高東低の気圧配置となる。
- 26日は、高気圧が日本付近を移動し、中国東北区に低気圧が進む。また、東シナ海で前線が発生する。
- 27日から28日にかけて、低気圧が日本海を進む。また、前線が本州南岸付近を進む。

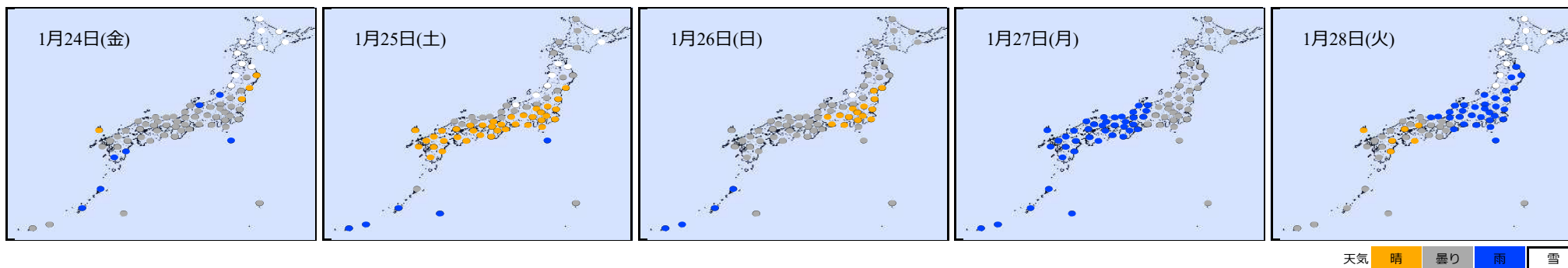
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

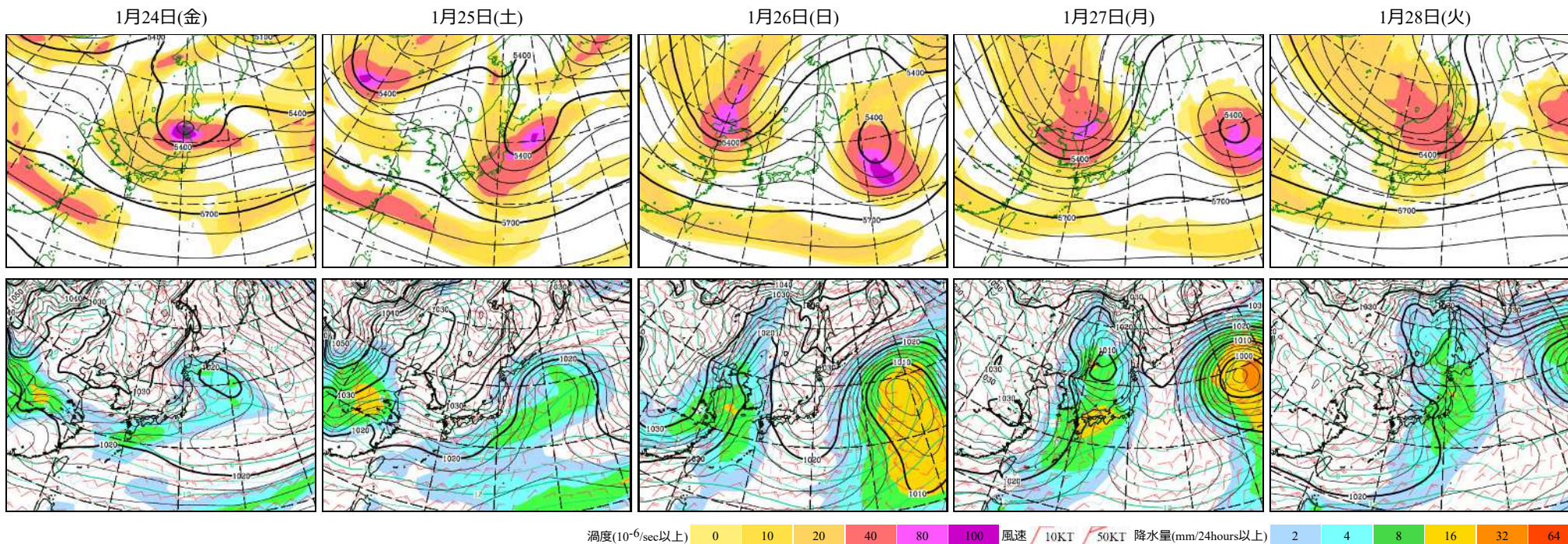
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

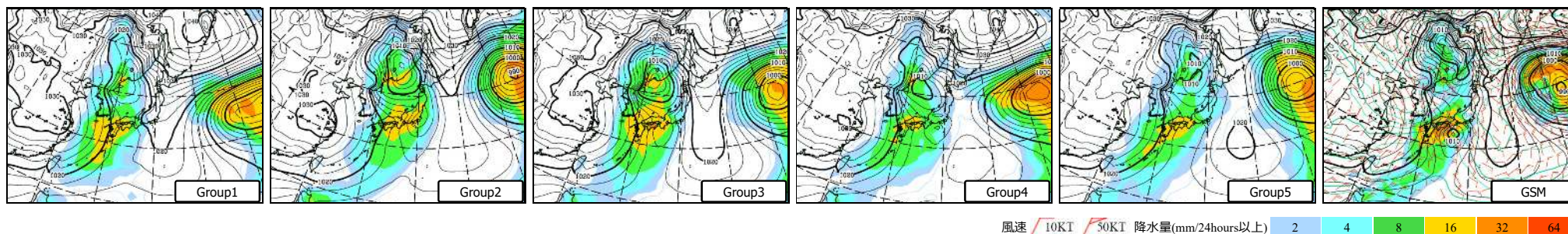


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、雲が広がりやすく雨の降る所がある。25日は晴れる所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月27日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはない。
- 26日頃までは、モデル間の差は小さいが、日本の東の寒冷渦の動きは海外モデルの方が日本モデルより遅れる傾向がある。27日以降の大陸の寒冷渦の予想は、初期値変わりやモデル間の差があり、不確実性が大きくなっている。
- 27日は、GSMは本州南岸に低気圧を予想する。ENSにはGSMに近い予想をするメンバーもあるが、海外モデルの様に低気圧を予想していないメンバーも含まれている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、27日の降水については、海外モデルの予想も参考に東への広がりを縮小して考える。
- 27日以降は、気圧の谷の東西の進みに不確実性がある。今後の予想資料によっては、雨の降り出すタイミングが前後する可能性がある。